

## 医療機関における保険の活用

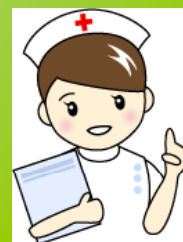
Merry Xmas



医療機関においても様々なリスクに備え、保険に加入されていると思います。

例えば・・・

- 災害などの天災に対するリスク
  - 医療事故に対するリスク
  - 死亡時の遺族に対する生活資金リスク
  - 退職時の退職金に対するリスク
  - 病気などにより診療が行えない場合のリスク
- など



では、それらの保障内容や目的を全て把握されていますか？現在のクリニックのニーズにありますか？クリニックを取り巻く環境は常に変化します。その変化に伴いリスクも変化していくのです。

### リスクの変化

開業時は・・・まだあまり収入も多くないので保険料を抑えたい。

しかし、もしもの時の**最低限の補償**は確保したい。

最低限の保障＝借入金の返済に絞った形に限定。院長が病気や怪我をするリスクに備え、医療や災害などの保障を付加

経営が安定してきたら・・・従業員様に対し⇒福利厚生や退職金準備をしたい。

理事に対し⇒万が一に備え**標準保障額**における不足部分を保険で準備したい。

※標準保障額＝①運転資金＋②借入金返済資金＋③退職金準備資金

①：固定費×6ヶ月分、②：直前期末借入金残高、③：a 理事退職慰労金＋b 功労加算金＋c 弔慰金  
(算定方法は各クリニックにおいて退職金規定の策定が必要です)

その他・・・ 後継者への事業承継対策・相続対策の準備

など

人の定期的な健康診断同様に保険にも定期的なメンテナンスが必要です。忙しい診療の合間にこのようなことまで、検討するには手間も時間もかかります。

また、保険の契約方法によって課税対象が異なることから、契約内容には十分注意することが必要です。当事務所では、お客様のニーズを掘り起こし、最適なプランを策定しその後のメンテナンスも定期的にお手伝い致します。

更に、これらのリスクの変化はクリニックだけでなく、院長個人や従業員様についても同様に定期的な確認が必要となります。

この機会に一度、今後のクリニック・院長・従業員様のライフプランを再検討し保険を確認してみませんか？



お問い合わせはこちらをクリック ⇒ [info@yamadasougou.co.jp](mailto:info@yamadasougou.co.jp)